



『私のホストスチューデント、ヒラリーは茶色の髪で色白、まさに私が想像する「外国人の女の子」でした。ヒラリーのお兄さんが俳優のオーディションを受けるのにいっしょに連れて行ってもらいました。文化の違いに驚きました。』

（中部中 高橋慧）

『お別れパーティーでは、剣道を紹介しました。日本から持って行った胴や面を着けてのけいこを見てもらいました。終わりに、ホストファミリィにもやってもらいました。会場中に、「めーん！」「こて！」の大きな声が響きました。ホストファミリィの人たちがほとんどんチャレンジしてくれて、とてもうれしかったです。9月に蒲郡に来て、剣道にはまったロッド先生は、さすがに上手でした。』

（塩津中 畑川奈津樹）

『一番心に残っているのは学校訪問です。日本とオーストラリアの授業や学校での過ごし方の違いにとてびつくりしました。ブラックバーン校では自由で楽しい雰囲気を感じました。ちよつと自由すぎるような気もしましたが、このツアーで周りの見方が変わったなど実感できました。』

（西浦中 尾崎綾香）

「グッダイ マイト（Goodbye）！」 「えっ、何？」 実際に英語を聞いてみるとびつくり。わからなくて困ったことも、よい思い出。言葉が違ってもわかり合えることを実感しました。

『学校訪問の時、みんなは名刺を渡して自己紹介。でも、僕は忘れてどきまぎ。ブラックバーン校のみんなはそんな僕を気づかってくれ、彼らから話しかけてくれました。英語ばかりの国でいっぱい話のできたのは、みんなの思いやりのお陰です。』

（形原中 近藤竜矢）

『この9日間は本当に楽しく充実した日々でした。ホストファミリィのデイビッドや新しいたくさんの友だちといっしょに授業を受けたり、話をしたりして、ハイスク

ールの生活を満喫しました。僕の周りには笑いが絶えませんでした。日曜日には彼らに教えてもらってクリケットやラグビーなどに挑戦しました。別れの悲しささえも忘れたくない大切な思い出です。』

（大塚中 安井祥悟）

『このツアーで英語のイメージが180度変わりました。知っている単語を並べれば伝わったからです。でも、ホームステイ中の適当すぎる英語は、さすがに反省しています。広大な自然の中で暮らす、おらかな人々のお陰と感じています。この9日間は、僕に大きな力を与えてくれました。貴重な経験がありがとうございました。』

（三谷中 石黒慎一郎）

『あいさつと笑顔とジェスチャーがあればだいじょうぶ、ということを実感しました。はじめ、ホストファミリィの方がいる話しかけてくれても緊張していて、うまく会話ができませんでした。しかし、慣れてくると、笑顔とジェスチャーと下手な英語で気持ちを伝えることができました。英語の力だけでなく、日々、成長している自分を感じることができました。』

（蒲郡中 鈴木聡太）

『一番心に残っている思い出はやっぱりホームステイです。はじめはすごく緊張して、話しかけられてもただうなずくことしかできませんでした。でも、日がたつにつれて自分から話しかけたり、家族の輪に入ったりできるようになりました。私のことを家族の一員として受け入れてくれたからだと思います。この9日間は、忘れることのできない私の宝物です。』

（蒲郡中 高橋真里奈）

オーストラリアの人々の温かさに触れ、ホストファミリィの一員として過ごした5日間は、生徒たちを大きく成長させました。

